

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価 結果

様式1(小・中)

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	鹿島市立東部中学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケートの結果をみると、生徒は充実した学校生活を送っている。職員が生徒一人一人のことを考えて教育活動に取り組んでいることがよくわかる。諸問題に対して学年・学校でいち早く共通理解を図り、組織的に取り組んでいる結果、明るく、落ち着いた学校づくりにつながっている。しかし、自己肯定感や自己有用感が低い、行事や生徒会活動を通して、自己肯定感や自己有用感を育む手立てをとらなければならない。 県学力調査の結果からみると、2年生においては全ての教科で昨年より伸びている。特に数学においては県平均を大きく上回った。課題チェックを確実にやってきた結果と思われる。ただ、下回る教科もあり、改善すべき点もある。生徒の学習に取り組む姿勢をよりよくするために、学力向上対策コーディネーターや研究主任が中心となって工夫改善していく。 コロナ禍の中で地域や家庭と一体となった教育実践は難しいものがあったが、PTAと一体となってボランティア活動を行ったり、生徒が地域に出向いて活動を行ったりすることができた。更に、ICT機器を効果的に活用するなど工夫して、連携を図らなければならない。
2 学校教育目標	郷土を愛し・健やかな心身を育み・ともに伸びる ～ STEP UP!! あいさつ(A)・掃除(S)・勉強(B) プラスワン ～
3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ①健やかな心身の育成(道徳教育の充実、人権・同和教育の充実、特別支援教育の充実、部活動や学校行事を通した人づくり、生活リズムの確立と食育の充実) ②学力の定着と向上(学習規律の定着、わかる授業づくり、学習環境の整備、主体的に学ぶ生徒の育成) ③協働してより深く学ぶ生徒の育成(対話によって学び合う生徒の育成、個に応じたキャリア教育の充実、行事や体験活動による実践力の育成) ④人間関係を形成する力の育成(気持ち良い挨拶ができる生徒の育成、無言掃除の徹底による心の育成、支持的風土のあるい学級づくり) ⑤地域とともにある学校づくり(開かれた学校づくりの推進、地域やPTAと連携)

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1)共通評価項目							
重点取組			中間評価		最終評価		
評価項目	取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践・学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践	○「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う」と回答した生徒80%以上。	・全教科半分以上の授業で「話し合う活動」を設定する。	A	・校内研修の取組として、話し合い活動を積極的に行っている。数値目標を上回る95%の生徒が肯定的な回答をしている。	A	・中間評価を下回ったものの、89%の生徒が「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う」と回答した。
	○指導方法の改善・充実	○授業が「分かる」と答える生徒の割合75%以上	・主体的に対話的な深い学びをおこなうためアクティブラーニング等の表現活動や活用を取り入れた授業に取り組む。 ・授業研究会を計画的に実施する。	A	・校内研修のテーマとして、主体的・対話的で深い学びをすべての教科で実践し、計画に沿って授業研究会を行っている。数値目標を上回る95%の生徒が肯定的な回答をしている。	A	・学習状況調査において、2年生は県平均との差が小さくなり、3年生は全教科県平均を上回った。 ・92%の生徒が「授業が分かる」と回答した。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童生徒80%以上	・ふれあい道徳を実施する。 ・生徒会主催での人権集会等を開催し人権意識を育む。	A	・ふれあい道徳を4月に実施した。道徳に関する生徒の肯定的な回答は平均85%であった。 ・人権集会は計画に沿って実施している。	A	・87%の生徒が「道徳の授業を通して、人としての生き方を学んでいる」と回答した。担任だけでなく、全職員で授業に取り組んでいる。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○職員のいじめ問題への対応や取組に対する、生徒評価、保護者評価で、90%以上	・毎月、生活アンケートを実施し、生徒指導主事を中心に全職員で生活面での問題の早期発見・早期対応につなげる。	A	・積極的な認知、認知を心掛け、これまで23件を報告している。 ・数値目標を上回る96%の生徒が肯定的な回答をしている。今後も、昼休み等の廊下や教室への職員常駐を続け、いじめ等の早期発見につなげる。	A	・98%の生徒が「差別したりいじめたりしないように心掛けている」と回答し、83%の保護者が「東部中はいじめの問題に取り組んでいる」と回答した。昼休みにも職員が教室に常駐するなど、予防的な生徒指導を行った成果であると考えられる。
	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上 ●◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒75%以上	・構成的グループエンカウンター等を利用して自己肯定感や有用感を高める。 ・地域の教育資源や人材をいかした体験活動や講演会を実施する。	A	・総合的な学習の時間などに、地域の方を講師として招聘し、講演会などを実施した。 ・生徒の回答はどちらも数値目標を上回るものであった。今後も地域と連携・協働して、教育活動に取り組む。	A	・77%の生徒が「夢や望ましい将来の自分像について考えている」「自分の将来のために、今努力をしている」と回答した。進路学習や職場体験学習等を通して、よりよい職業観を養うよう指導した結果であると考えられる。 ・91%の生徒が「先生があなたの良いところを認めてくれている」と回答
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康に良い食事をしている」と回答した生徒生徒80%以上	・フォーサイトを利用し、自己管理できる力を養う。 ・学校HPや各種たよりを発行し、保護者のに生徒の様子を積極的に知らせる。 ・生徒を安全に登下校させるため、定期的にルールやマナーについて指導を行う。	A	・集会時等の安全指導や、巡回しながらの安全指導を行った。 ・97%の生徒が「健康に良い食事をしてい」と回答した。生徒の自転車が車に接触される事故が2件発生したので、引き続き、定期的に安全指導を行う。	A	・90%以上の生徒が「健康に気をつけて生活している」「健康に良い食事をしてい」と回答している。また、97%の生徒が「危ない目にあわないように、行動に気を付けている」と回答している。引き続き、集会等での安全指導や、巡回指導を行う。
	○安全に関する資質・能力の育成	○児童生徒の交通事故を0(ゼロ)にする					
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・毎週水曜日を定時退勤日、部活動休養日とし、時間外に行事等を入れない。 ・業務内容を精選する。また、業務を分担し、一人に過重負担がないようにする。 ・業務内容を精選する。また、業務を分担し、一人に過重負担がないようにする。	B	・職員は業務の精選を行い、効率化を図っているが、保護者対応や対外的な業務で長時間勤務になってしまう職員がいる。個人の努力や校内の業務改善だけでは限界がある。	B	・91%の職員が「業務の効率化を図っている」と回答している。平均時間外在校時間は、基準の月45時間を下回るが、個々には基準を超えている職員もいる。業務分担等、更なる効率を図る必要があるが、個人の努力や校内の業務改善だけでは限界がある。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目							
----------------------	--	--	--	--	--	--	--

重点取組			中間評価		最終評価		
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果
○あいさつや掃除の充実	○「あいさつ」や「掃除」の充実	○生徒が「元気よくあいさつができている」と答える保護者の割合が80%以上 ○「掃除がきちんとできている」と答える生徒の割合が90%以上	・生徒会やPTAと連携してあいさつ運動を行う。 ・掃除のときも職員が臨場指導し、その都度生徒を評価する。	A	・PTAと生徒会合同で朝の挨拶運動を行った。 ・全職員が臨場し、率先垂範しながら清掃指導を行い、すべての生徒が「掃除がきちんとできている」と回答した。	A	・98%の生徒が「掃除をきちんとしている」と回答し、90%の保護者が「生徒が家庭や地域でよくあいさつをしている」と回答している。
○地域とともにある学校づくり	○地域とともにある学校づくり	○「地域に誇りを持っている」と答える生徒の割合が80%以上	・ボランティア活動に積極的に参加させる。 ・保護者が行事に参加しやすい日程を設定したり、内容を工夫する。 ・サービスマーケティングを行う。 ・HPを使って積極的に情報発信を行う。	A	・学校ホームページをこまめに更新し、情報発信を行った。 ・生徒とPTAが連携してボランティア活動を行った。 ・87%の生徒が「地域に誇りを持っている」と回答した。	A	・生徒会等のボランティア活動で積極的に地域と一体となった活動ができた。また、88%の生徒が「鹿島市で生活できて幸せだと思う」と回答している。98%の保護者が学校の情報発信を肯定的に評価している。

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<p>学校評価アンケートでは、生徒は充実した学校生活を送っていると考えられる。教職員が生徒一人一人の状況等に応じて、教育活動に取り組んでいる結果であると思われる。様々な課題に対して、学年や該当の校務分掌担当等がいち早く情報共有や共通理解を図り、組織的に対応した結果、明瞭で落ち着いた学校づくりにつながっている。約80%の生徒が自分のことを肯定的にとらえているが、今後も諸行事や生徒会活動等を通して、自己肯定感や自己有用感を高めるための取組を継続したい。</p> <p>全国学力・学習状況調査や県学力・学習状況調査の結果からみると、3年生は全教科で県平均を上回り、2年生は、県平均との差が縮小するなど、成果が見られた。今後も学力向上対策コーディネーターや研究主任を中心として、主体的対話的な深い学びの充実に向けて、授業の工夫改善を進め、家庭学習の質的・量的改善を目指して支援していく。</p> <p>地域の方を講師としてお招きしたり、生徒がPTAと一体となって地域におけるボランティア活動を行ったりするなど、地域とともにある学校を目指した活動を実施することができた。地域との連携を今後も深めていきたい。</p>
----------------	--